

千城台地区学校適正配置

地元代表協議会だより

第6号

千城台地区
学校適正配置
地元代表協議会

※協議会における合意事項とその主な理由 【合意事項】

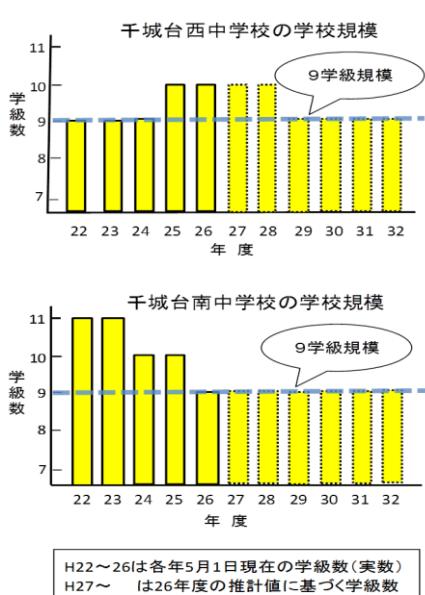
当面、中学校の統合は見送る。ただし、両中学校において学年2学級になつた段階で統合協議を再開する。

【主な理由】

- ① 両中学校とも今後も学年3学級（9学級規模）を維持できる推計であること【左グラフ参照】。

② 現状、学級数が少ないことなどによる学校運営上の課題は感じられないこと。

③ 生徒指導上の様々な問題を抱えた生徒への対



小・中学校保護者代表による分科会で協議継続

小・中学校保護者代表による分科会で協議継続
学級數
今後は、中学校2校を前提に、①小学校統合の組合せ、②統合校の位置、③統合の時期、が論点になつていきます。引き続き、学校保護者代表による分科会で原案を作成し、全体会でも協議して、合意形成を図つてまいります。

【会長挨拶】

千城台地区学校適正配置地元代表協議会

会長 氏家 英助



熱心な議論が続く協議会

ひ街づくり。二十二名。校適正配置の重大性を強調しました。西中と「西中」との合意を達成しました。関係者、各種会合で、校統合のあくまで論点整理は統合すれば、謝申し上げました。関係者、上昇するまことに、各協力をお願い申し上げます。

小学校は統合するとどう変わるのか

現在、協議会では小学校の統合に向けた組合せや統合校の位置、統合の時期といった具体的な協議を行っています。しかし、統合協議が始まつて 5 年目に突入し、当初、話し合われてきた「統合するとどう変わるのか」ということへの共通理解が薄らいでてしましました。そこで、今回は小学校が統合するとどう変わるのかについて、まとめてみました。

○そもそも「なぜ統合?」

千城台地区の小学校は、昭和 40 ~ 50 年代に開校され、一時はかなりの児童数・学級数がありました。しかし、その後は減少し、平成 26 年度は千城台東小を除き「小規模校」（全校で 11 学級以下）となっています。そこで、この地区における小規模校化と、それに伴う課題への対応を検討することが必要になりました。

○小規模校のメリット・デメリット

小規模校は、「アットホームな結びつきができる」等のメリットがある反面、「合唱や合奏、球技等の大人数での活動ができるない」等の教育活動への支障や、「学級替えができるない」と「人間関係が固定してしまう」等のデメリットがあります。



自動で水が出る手洗い場



ドライ化した給食室

○小学校の統合について、協議会では何が決まっているのか。

平成 24 年 3 月に行われた第 14 回協議会では、小規模校化による支障を解消・軽減するため小学校の統合は必要であることが合意されています。

○統合により、子どもたちの環境はどう変わるか。

学年当たりの学級数が増えることにより、学級替えが可能となり、多様な人間関係の中で切磋琢磨できる環境が生まれます。また、大きな集団での学習活動が可能になります。

○統合校の施設はどうなるか。

統合対象校は両校とも廃校になり、新しい学校名、校歌、校章等をもつ統合新設校が開校します。

ただし、校舎は原則として対象校のどちらかを使用し、大規模改修を基本としたリニューアルを実施します。

○先行統合校の状況

この 4 月に幸町小学校と花見川中学校が開校し、すでに千葉市として 10 校の統合新設校が誕生しています。先行地区で統合後に実施した児童生徒、保護者、教職員のアンケート・聴き取り調査では、「友だちが増えた」「学校が活性化し、元気になった」「行事に活気が出た」「トイレなどがきれいになった」という声が多く聞かれています。

○子どもの安全・安心

通学路の安全確保については、安全マップの作成やセーフティウオッチ事業等の活用に加え、統合校安全指導員による巡回・見回りを実施します。

統合校の子どもたちの心のケアを図るために、統合前の職員をバランスよく配置するとともに、統合による不安を解消するため、スクールカウンセラーを一年間配置します。

○学校跡地はどうなるか。

千葉市資産経営基本方針に基づき、中長期的な視点から、人口・世代構成や、周辺施設の状況、地元住民の要望などを総合的に勘案し、跡地利用を検討していきます。



平成 27 年 4 月 26 日発行